

SDGsの位置づけ



誰もがいつでも学ぶことができる生涯学習の機会の整備・充実➤子どもから高齢者まで、誰もが生涯にわたり学び続けることができる多様な学びの機会を提供・紹介するとともに、学んだ成果を活かして社会で活躍できる仕組みを整備する。



「**のびのび興譲館**」や「**放課後子ども教室**」では、地域の様々な組織や個人と連携した活動を取り入れている。既存のパートナーに加えて新たな主体と連携・協力関係を築くとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代が、様々な交流を通して相互に学び合い、学んだことを地域へ還元する、持続可能な教育の仕組みを整備する。

各評価者による具体的な対応策・提案

- ▶オンラインでの受講という方法について、ビデオ会議・通話を使ってみたいという市民ニーズも増えていると想定できる。高齢者や子どもIT利用促進の面からも、スマホ・タブレット講座やzoom講座等も開講して利用可能層を拡大してはどうか。
- ▶また、学ぶことを目的ではなく、ボランティアや子どもたちの育成をやりたいと考えている人向けに、人材育成を達成するための講座を作ってはどうか。
- ▶20代～50代を対象とするのでは、範囲が広すぎると感じる。また、各世代に絞って課題を想定すると、例えば子育て世帯などは子どもを預ける場所が無いと本事業への参加が難しいことが想定されるため、世代ごとの課題抽出等を検討いただきたい。
- ▶SDGsでパートナーシップをうたっているため、国際的な取組の実施をしたらどうか。コロナ禍前には都留文科大学の留学生と市民が交流する機会があったのかもしれないが、現状ではそういったイベントが展開されていない。インターナショナルなイベントや異文化交流、語学などに関するグローバルな講座があれば良いと考える。
- ▶SDGsはグローバルな指標ではあるが、国際的な視野を持って地域に活動するのも、サステナブルな社会につながっていくとも言われている。「Think Globally, Act Locally」と謳われるように、日本や地方にいても国際的な視野を持ちながら地域で行動することはできる。身の回りのことの積み上げていくことが国際的な結果につながると思っている。市民大学でも世界やSDGsはテーマとして重すぎると感じる面もある。地域の身近な面に目を向けた、リアルな地域の課題に向き合うような講座も良いのではないが。そうした講座を各世代向けに提供出来たらよいのではないか。

コーディネーターによる意見のまとめ

- ▼高齢者や子供のIT利用促進の面からも、ZOOM講座など、社会背景に即した講座の実施を検討いただきたい。
- ▼市民へのニーズ調査が本事業のカギになるのではないか。アカデミックなものが良いのか、実学的なものがいいのか、開催日時や期間などのスキームなど、多様な視点からのニーズ把握が必要と考える。

事業を進める上での課題・求めるアドバイス

- 令和4年度開始予定の「市民大学」では、どんな講座があったら受講してみたいか。
- 今まで生涯学習に関心のなかった人、生涯学習に取り組む機会がなかった人に、どのようにアプローチをしたらよいか。
- 学習成果を社会へ還元するための方法として、自分が学んで満足して終わりではなく、その成果を活かしてボランティアなどの地域貢献や、子ども達の育成・支援に関わってもらうには、学習者にどのように動機づけをしたらよいか。